

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平8-115454

(43)公開日 平成8年(1996)5月7日

(51)Int.Cl.⁸
G 0 7 D 9/00

識別記号 庁内整理番号
4 3 1 Z
3 0 6
4 2 6 Z

F I

技術表示箇所

審査請求 有 請求項の数3 FD (全3頁)

(21)出願番号 特願平6-279905

(22)出願日 平成6年(1994)10月19日

(71)出願人 592097934

産電子工業株式会社

群馬県邑楽郡大泉町上小泉1920番地

(72)発明者 糸田 耕一

群馬県邑楽郡大泉町上小泉1920番地 産電子工業株式会社内

(72)発明者 須藤 芳男

群馬県邑楽郡大泉町上小泉1920番地 産電子工業株式会社内

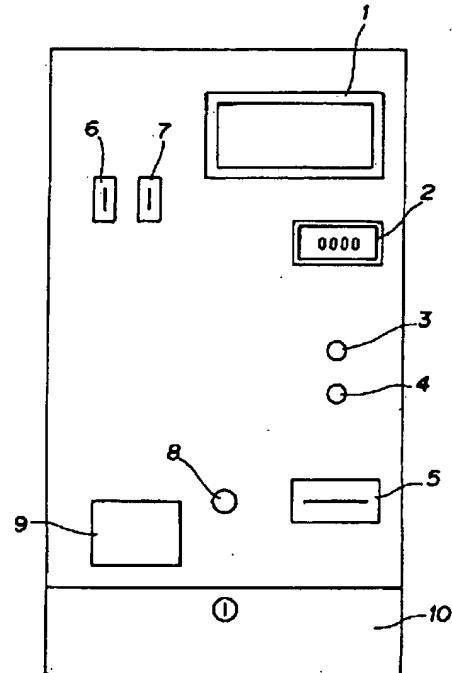
(74)代理人 弁理士 伊東 貞雄

(54)【発明の名称】 投入小銭を記録カードに表示し商品券として利用できるようにする方法及び装置

(57)【要約】

【目的】 スーパーマーケット、コンビニエンスストア、百貨店、商店等に設置し、1円、5円、10円、50円、の少額硬貨を投入するとその金額を表示したカードが発行され、一定金額に達するとその店の商品券として使用できるようにし、固定客の確保や売上げの増大、業務省略化を図ることを目的としている。

【構成】 利用客自身が筐体前面の小額硬貨投入口より投入した金額を表示パネルに表示すると共に、画像記録カード出し入れ口より挿入した画像記録カードに印字し、出し入れ口より返却し、該画像記録カードの合計額が予め定めた金額に達した時、商品券として使用できるようにしたことを特徴とする投入小銭を画像記録カードに表示発行する方法、及び筐体前面に少額硬貨投入口と画像記録カード挿入取り出し口と、操作スイッチ及び表示パネルを配設し、筐体内には投入された硬貨選別集計装置と、該集計金額を画像記録カードに書き込むカードリーダライタ及び消去装置とそれ等の制御装置を配設したことを特徴とする投入小銭を記録カードに表示発行する装置。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 利用客自身が筐体前面の小額硬貨投入口より投入した金額を表示パネルに表示すると共に、画像記録カード出し入れ口より挿入した画像記録カードに印字し、出し入れ口より返却し、該画像記録カードの合計額が予め定めた金額に達した時、商品券として使用できるようにしたことを特徴とする投入小銭を画像記録カードに表示発行する方法。

【請求項2】 筐体前面に少額硬貨投入口と画像記録カード挿入取り出し口と、操作スイッチ及び表示パネルを配設し、筐体内には投入された硬貨選別集計装置と、該集計金額を画像記録カードに書き込むカードリーダライタ及び消去装置とそれ等の制御装置を配設したことを特徴とする投入小銭を記録カードに表示発行する装置。

【請求項3】 カードリーダライタは画像記録カードに表示されている金額を読み取り、消去し、新たに投入された小銭額と合計して画像記録カードに新たに表示する如くした請求項2記載の投入小銭を記録カードに表示発行する装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、スーパー、コンビニエンスストア、百貨店、各種商店等に於て、利用客が釣銭として受け取った少額硬貨を投入してその金額を画像記録カードに表示し、一定金額に達するとその店の商品券として使用できるようにした投入小銭を記録カードに表示し、商品券として利用できるようにする方法及び装置に関する。

【0002】

【従来の技術】消費税の導入以後、スーパー等で買物の釣銭をレジに設置され、POSのストアコンピューターで制御し各種カードに表示発行することが行われた。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】上記従来技術に於ては、POSのストアコンピューターや周辺機器の導入、変更、保守に大きなコストがかかり、又カードの発行機をレジに設置しなければならないため場所をとり、更に処理をレジで行わなければならぬので手間と時間がかかるという問題点があった。又、利用客に発行するものは殆ど追加記入方式の磁気カードで、情報を書き足していく回数に限界があるという問題点があった。本発明は上記問題点を解決することを目的としている。

【0004】

【課題を解決するための手段】本発明は上記目的を達成するため、利用客自身が筐体前面の小額硬貨投入口より投入した金額を表示パネルに表示すると共に、画像記録カード出し入れ口より挿入した画像記録カードに印字し、出し入れ口より返却し、該画像記録カードの合計額が予め定めた金額に達した時、商品券として使用できるようにしたこと、及び筐体前面に少額硬貨投入口と画像

記録カード挿入取り出し口と、操作スイッチ及び表示パネルを配設し、筐体内には投入された硬貨選別集計装置と、該集計金額を画像記録カードに書き込むカードリーダライタ及び消去装置とそれ等の制御装置を配設したことと特徴とする。

【0005】

【実施例】次に図示した本発明の一実施例に基いて詳細に説明する。1は本装置の操作説明を表示する液晶表示パネルで、2は投入された金額や画像記録カードの累積

10 金額を表示するための7セグメントディスプレイである。3は操作スイッチA、4は操作スイッチBである。5は内蔵されているカードリーダライタへと通じる画像記録カードの挿入・取り出し口である。6は少額硬貨のうち1円硬貨専用の投入口で、7はその他の5円、10円、50円硬貨の投入口である。一度投入した硬貨を払い戻したい時に押すのが8の返却スイッチで、9がその返却口である。装置下部にあり鍵で開くのが投入された硬貨の金庫10である。本装置を初めて利用する場合は、液晶表示パネル1に表示されている案内に従って、20 3の操作スイッチAを押す。すると、液晶表示パネル1の表示内容が〈硬貨を投入して下さい〉の旨に変わるので、硬貨投入口6、7から硬貨を投入する。投入された硬貨の合計金額はその都度7セグメントディスプレイ2に累積表示される。硬貨の投入を終了したら、4の操作スイッチBを押す。するとその時点の投入金額を印字した画像記録カードが5のカード挿入・取り出し口から発行される。一度発行されたカードに続けて金額を累積する場合は、液晶表示パネル1の案内に従いカード挿入・取り出し口5にそのカードを挿入する。するとリーダライタがそのカードを取り込み、7セグメントディスプレイ2にカード内に累積されていた金額を表示する。更に液晶表示パネル1の表示内容が〈硬貨を投入して下さい〉の旨に変わるので、初めて利用する場合と同じ様に硬貨投入口6、7より硬貨を投入して4の操作スイッチBを押す。そうすると、カード内に累積されていた金額と、投入した金額の合計金額に印字内容及び磁気データを書き換えたカードが発行される。上記二通りの操作方法において、硬貨の投入をキャンセルしたい場合は返却スイッチ8を押せば、9の返却口より投入した硬貨が全額返却される。例として、使用可能額面1000円、購入金額980円の前払式証票だった場合、合計投入金額が980円になると、満額に達した事になり、そのスーパー等において1000円分の買物ができる。この場合、20円がプレミアムという事になる。この額面やプレミアム率は自由に設定出来る様になっている。投入された金額の合計が使用可能額面を超えた場合は、超過金額分を表示した新たなカードが発行される。以上の様に、本装置の利用はあくまで利用客が独自に行うものであり、設置するスーパー等には画像記録カードの補充や金庫内の硬貨の回収しか手間はかからない。また、硬貨

の回収時は金庫内の合計金額や金種別の合計等を印字したカードが発行される様になっている。

【0006】

【発明の効果】本発明は、利用客自身が筐体前面の小額硬貨投入口より投入した金額を表示パネルに表示すると共に、画像記録カード出し入れ口より挿入した画像記録カードに印字し、出し入れ口より返却し、該画像記録カードの合計額が予め定めた金額に達した時、商品券として使用できるようにしたこと、及び筐体前面に少額硬貨投入口と画像記録カード挿入取り出し口と、操作スイッチ及び表示パネルを配設し、筐体内には投入された硬貨選別集計装置と、該集計金額を画像記録カードに書き込むカードリーダライタ及び消去装置とそれ等の制御装置を配設したことを要旨としているので、下記の効果を有する。

1. 本装置は、POSシステムとは無関係にレジから離して設置するため、導入や保守、仕様の変更等が容易に低コストで行える。また、レジ外に装置が存在し、その利用は利用客自身が主体的に行うため、レジでの業務には支障をきたす事はない。

2. 本装置は記録媒体に加熱により印字・消字可能な画

像記録カードを用いるため、ランニングコストを低減する事ができる。

3. 本装置の利用は、1円、5円等の少額硬貨によって行うため、運用によって、一度買物客に釣銭として渡した小銭の一部を回収する事ができる。これにより相対的に釣銭の準備金が減少し、それにかかる手間も低減する事になる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例筐体正面図である。

10 【符号の説明】

- 1 液晶表示パネル
- 2 7セグメントディスプレイ
- 3 操作スイッチA
- 4 操作スイッチB
- 5 画像記録カードの挿入・取り出し口
- 6 1円硬貨投入口
- 7 5円、10円、50円硬貨投入口
- 8 返却スイッチ
- 9 返却口
- 20 10 金庫

【図1】

